

令和6年第2回定例会一般質問通告事項

	<p>岡村 隆 議員 ( 公 明 党 )</p>	<p>質問方式:一問一答方式</p>
<p>6 月 20 日</p>	<p>1 高齢者の自己決定支援の推進          単身高齢者が死後数日たって見つかった。結局市の方で斎場でのいわゆる「直葬」で送るしかなかった。お骨がどうなったかは不明。個人の尊厳を保つため。「尾道市高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画」には「自分ノート」等を活用した「終活」の取組が広がるよう啓発を行います」とあるが、</p> <p>(1) 「自分ノート」の内容、終活の取組が広がるための啓発方法、についてはいかがか</p> <p>(2) 例えば身寄りのない単身高齢者の場合、市と葬儀社が事前に提携し、本人と提携葬儀社が生前の契約で一定額の費用を預け、亡くなった後は市と提携葬儀社とで葬儀や納骨を行っている自治体もある。このような取り組みを検討してはいかがか</p> <p>(3) 単身高齢者が亡くなった後、住居が空き家になる可能性が非常に高い。関係者が声をかけ、「任意後見」制度の活用や生前贈与、遺言書作成など、判断能力があるときに、住居の今後についてできる取り組みを紹介、後押ししていくことが非常に大切だと思うが、いかがか</p> <p>(4) 成年後見制度は、ニーズに見合った利用がされていないとも言われている。一方、意識がしっかりしている段階で将来に備え自分で後見人を指定できる「任意後見」があるが、これについてはほとんど周知されていないのではないか</p> <p>ア 現在の成年後見制度利用状況、利用が伸びていない原因、今後の利用促進への取り組み</p> <p>イ 「任意後見」制度の概要、メリット、周知の必要性と周知方法について伺う</p> <p>2 書店復活へ尾道市の取り組みは          全国的に書店の減少が顕著である。「文学のまち」を自称する尾道市として対策が急務であるが</p> <p>(1) 現在の書店を取り巻く状況をどのように受け止めているか</p> <p>(2) 八戸市では、全国初の市直営の書店「八戸ブックセンター」を開設し賑わいを創出している。書店を守る尾道市の取り組み、決意を伺う</p>	

